

北海道浮魚ニュース

平成 16(2004)年度 23 号 (通巻 No.187)

2004 年 11 月 2 日

北海道立水産試験場

道東太平洋サンマ・マサバ漁期後調査結果

北辰丸(釧路水産試験場試験調査船)で行ったサンマ・マサバ漁期後調査の結果をお知らせします。今回の調査は、主漁場が三陸以南に移った後、道東沖にはどの位のサンマやサバ類が分布しているか、その組成(大きさ)はどうなっているかを明らかにするために行いました。また、昨年と同調査と CPUE や体長組成の比較を行いました。

調査期間: 2004 年 10 月 26 日~29 日

調査海域と調査点(図 1): 道東太平洋の 5 調査点(漁獲調査は 3 点)

調査方法: 9 種類の目合(22,25,29,37,48,55,63,72,82mm)の流し網を用いた漁獲試験

水温(表 1)

各調査点の表面水温は、10.7 ~ 12.4 (昨年: 9.0 ~ 11.4) 50m層では 4.0 ~ 9.2 (昨年: 3.0 ~ 6.9) の範囲にあり、いずれも昨年より 1~2 程高くなっていました。

漁獲尾数(表 1)

・サンマ

流し網によるサンマの総漁獲尾数は 40 尾で、沖合の St.3 では漁獲されませんでした。CPUE*(流し網 1 反あたり漁獲尾数)は 1.0 尾で、昨年実施した同調査(31.3 尾)を大幅に下回りました。*流し網目合 22~48mm(計 42 反)の漁獲尾数から算出した。

・サバ類

流し網によるサバ類の総漁獲尾数は、昨年の同調査では 12 尾でしたが、本年の調査では漁獲されませんでした。

・カタクチイワシ

流し網によるカタクチイワシの総漁獲尾数は 133 尾で、南側の St.5 で最も多く漁獲されました。CPUE は 3.2 尾で、昨年実施した同調査(23.5 尾)を大幅に下回りました。

体長組成(図 2)

・サンマ

調査全体では、30cm 台を中心とした大型魚を主体に、23~24cm 台を中心とした中型・小型魚と 18cm 台のジャミも漁獲されました。調査点別でみると、St.5 では主に特大および大型魚が、St.7 では大型魚および中型が漁獲されました。

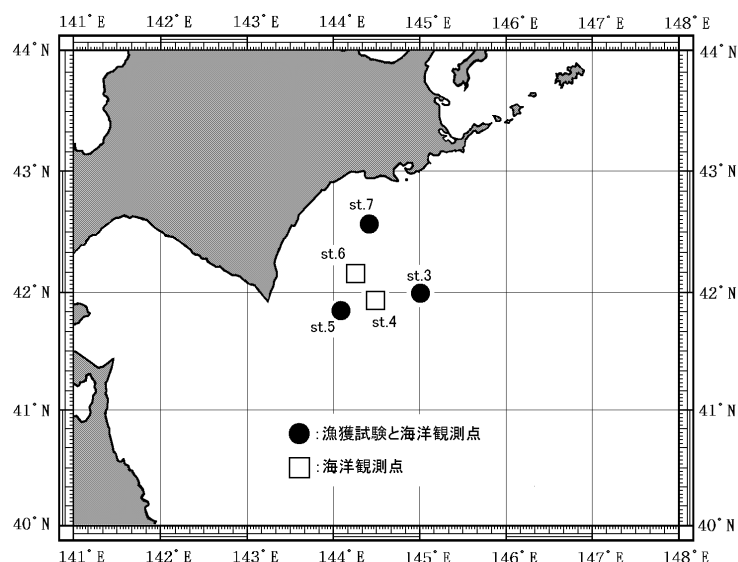


図 1 サンマ・マサバ漁期後調査点図

まとめ

本年の調査では、サンマは昨年同様大型魚も漁獲されましたが、分布は沿岸側に偏っており、その量も前年を大幅に下回りました。この理由としては、10月上旬に漁船が道東太平洋沿岸でこれまでよりも濃いサンマの魚群を確認するとともに、漁場も沿岸で形成されたこと、また、サンマ南下期調査では好漁場が形成される潮境付近で漁獲試験を行いました。漁獲尾数は2000年以降では最も少ない結果(2004年度浮魚ニュース No.185 参照)であったためと考えられました。

表1 サンマ・マサバ漁期後調査結果一覧

調査点	位置		水温()			主要魚種の漁獲尾数			
	北緯	東経	0m	50m	100m	サンマ	サバ類	マイシ	カササギ
3	42-00	145-01	11.4	4.1	3.1	0	0	0	5
4	41-55	144-30	10.7	6.4	2.9	-	-	-	-
5	41-50	144-06	11.4	4.0	2.3	13	0	0	127
6	42-10	144-15	12.4	5.3	3.6	-	-	-	-
7	42-33	144-27	11.3	9.2	2.5	27	0	0	1
合計						40	0	0	133

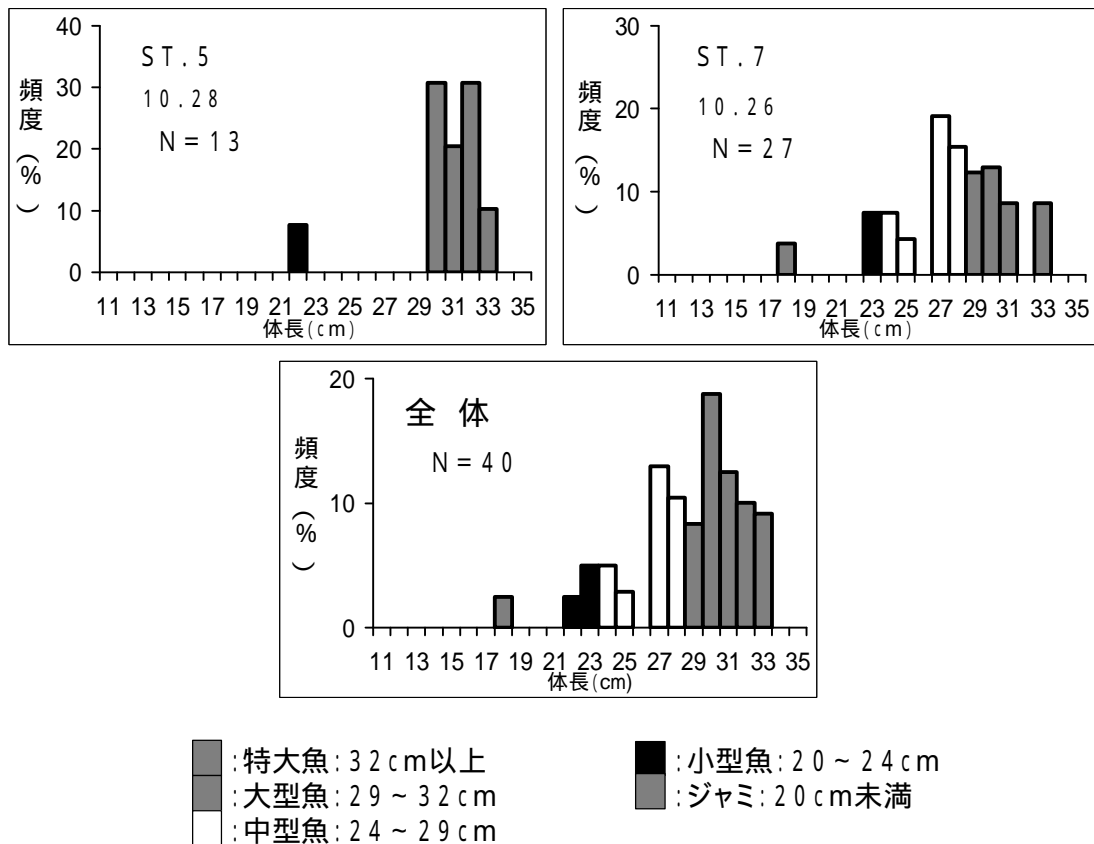


図2 流し網で採集したサンマの体長組成 (Nは漁獲尾数)

(文責: 釧路水産試験場 資源管理部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)